



対馬丸 通信

発行：(財) 対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 25 年 3 月 30 日発行 第 26 号

小桜の塔周辺がとってもきれいに整備されました

この度、那覇市役所の事業で「波の上宮」鳥居の手前から入って小桜の塔までの通路が舗装整備されました。小桜の塔は、1959年6月9日に現在地に移転され、毎年の慰霊祭を執り行い、多くの参拝者が訪れています。しかし、福木を縫って進む通路は、砂利道のままで歩行に難がありました。

この度、雨水を通す浸透性のある白色系のアスファルトが敷かれ、高齢者、遺族、参拝する皆様の歩行の安全がいつそう確保されました。舗装した通路は、波をイメージした小桜の塔の白い階段とマッチし、慰霊碑にふさわしい清らかで静かな雰囲気を表しています。

通路整備とあわせ、塔周辺の4ヶ所に水道を設置して頂きました。これまでは、花の苗を植えては記念館から水を運んでかけておりましたが、水道整備で便利になり、塔の周りの緑化、美化に大いに役立ちます。

また、小桜の塔の側にはガジュマルが生えており、昨年、那覇市役所にはそのガジュマルの周りにあった雑木を伐採して頂きました。そして、気根を何本も下ろし、岩を抱いて生きる大木のガジュマルが露わになりました。岩場でも大木に生長する姿は、どんな困難な中でも諦めずに生き抜く命の力強さを表しています。名前を募集し、つしま児童合唱団の宮里聖音さん（若狭小4年生）によって「ファンバルガジュマル」と命名されています。



那覇市役所には特段の配慮を頂き、心から感謝します。これからも、旭ヶ丘公園が平和の杜として市民の憩いと祈りの場に一層相応しくなるよう、遊歩道等の整備をお願いします。

ところで、小桜の塔の斜面にある桜は、昨年の台風や病害虫で痛められております。花も貧弱に咲き、桜の名を冠する塔に相応しくない状態であります。

このために、4月1日予定の公益財団法人発足を祈念して、塔の前面左右、それに通路入口の両脇に4本の桜を植えることとします。この桜は、久米島で発見された「クメノサクラ」といい、白い花が咲いた後にピンクの花に変化します。日本本土に咲くソメイヨシノの花にも劣らないこの桜は、久米島町役場から寄贈を受けました。

クメノサクラの白い清楚な花のイメージは、子供達の純真な心を表し、平和を象徴します。桜の植栽と合わせ沖縄県緑化推進委員会緑の募金公募事業で植える彼岸花科のハマユウの白い花と共に、慰霊と平和を祈念する場所に一層ふさわしいものであります。

クメノサクラのクメは、久米にある小桜の塔、犠牲になった多くの学童が久米の出身であったことも語呂合わせになります。

白い桜の花とハマユウの花の満開を心待ちにしております。



新作組踊

「海鳴りの彼方」対馬丸の子ら」公演

新聞記事転載

平成二十四年十一月十一日 琉球新報ホール

対馬丸題材の組踊「海鳴りの彼方」

抑えた表現に深み

日常奪う戦争の罪描く

抑えた表現だからこそ、深く心に響いた。11日に琉球新報ホールで上演された太平洋戦争中の学童疎開船「対馬丸」沈没が題材の新作組踊「海鳴りの彼方」対馬丸の子ら」大城立裕、幸喜良秀演出。「八・八・六」のリズムに乗せた唄えや抑えた所作、琉球古典音楽による心情表現など組踊の様式を使った。さらに沖縄芝居のつらね、和箏なども融合させ、戦争がもたらす悲劇を効果的に表現し、観客の胸を打った。

心揺さぶる古典音楽

対馬丸が題材の新作組踊「海鳴りの彼方」は初演のため乗船した。特に印象深いのは、対馬丸が沈没し、命からがら丸に乗り、帰らない同級生ら助かった小学6年生の武志（比嘉克己）は沖繩で待つ母トシ（山城亜矢乃）の元へ。一緒に対馬丸に乗っていた多くの友人らがなくなった沈没の光景を思い出す武志が恐怖、悲しみにさいなまれる様子を比嘉が体を震わせつつ表現した。

対馬丸に乗った孫を失った金城（ハシ）（比嘉いずみ）、大嶺（ターリー）（宇座仁）は、やり場のない怒りを武志トシへぶつける。戦争で子を失ったのに加え、疎開させたはずの孫も失った悲しみ、憤りを比



（右）孫を失った大嶺ターリー（宇座仁）が武志（比嘉克己）と山城（ハシ）の無い怒りをぶつける場面。11日、那覇市泉陽の琉球新報ホール

い出を小学6年生の八重子（嘉数千季）と道子（渡嘉敷彩香）が語る場面。八重子は小説、ああ無情を友人の紀子に借りたままだが、返さず思つても紀子は帰らない。



対馬丸に乗り帰らぬ人となった同級生が好きだった本の思い出を語り合う八重子（嘉数、右）と道子（渡嘉敷）

ささげる。「戦じょうん、無んたれー（戦さへ無かつたら）」と繰り返して倒れ込むトシ。つらねで「くぬまうな運命や、有ていやなんん（このような運命が有つてはならない）」と叫び、神谷大輔の独唱「散山節」に乗せ退場し余韻を残した。全体を通して、抑えた表現だから想像力をかきたてた。「対馬丸」沈没後の状況を通過し、戦争の悲惨さを伝える意義深い作品として再演も期待したい。（古堅一樹）

琉球新報 平成 24 年 11 月 14 日 芸能面

芸能



（左）大嶺ターリー（宇座仁）が武志（比嘉克己）と山城（ハシ）の無い怒りをぶつける場面。11日、那覇市泉陽の琉球新報ホール

戦争の愚かさ 如実に描写 新作組踊「海鳴りの彼方」



戦争で奪った自分の悲しみを描いた「海鳴りの彼方」。左から大嶺ターリー、山城亜矢乃、比嘉いずみ。那覇市・琉球新報ホール

在するなか、標準語が強制された戦中の雰囲気も伝えた。一方で、子役をききまな水蓮の演習交じりや、舞台の統一感が強い印象が残った。主人公の少年・知念志を演じた比嘉克己は、学友を失った悲しみと、死んだ友人の肉親からの恨み言に耐える少年の無念を、抑えつつ唄え

で熱演。孫を失った怒りを、どこにぶつけていいかわからず、疎開を勧めた校長（神谷武史）にくつつかる大嶺ターリー（宇座仁）の演技も、戦争がもたらす苦しみを実感させた。

物語のラスト、多くの子供が犠牲になつたことを嘆く武志の母トシ（山城亜矢乃）つらねや何処へも運命でい言しがくぬまうな運命や有ていやなんん（世間では何事も運命と言つてはならない）、それに続く「散山節」での西洋基督教の地謡が、国家間の争いで罪のない者が死んでいく理不尽さを訴え、愛する者を失った悲しみを際立たせた。

熱演に遺族ら涙

太平洋戦争中の学童疎開船「対馬丸」沈没を題材にした新作組踊「海鳴りの彼方」対馬丸の子ら」が、11日、那覇市泉陽の琉球新報ホールで上演された。対馬丸が沈没した時、小学6年生の武志（比嘉克己）は沖繩で待つ母トシ（山城亜矢乃）の元へ。一緒に対馬丸に乗っていた多くの友人らがなくなった沈没の光景を思い出す武志が恐怖、悲しみにさいなまれる様子を比嘉が体を震わせつつ表現した。

対馬丸に乗った孫を失った金城（ハシ）（比嘉いずみ）、大嶺（ターリー）（宇座仁）は、やり場のない怒りを武志トシへぶつける。戦争で子を失ったのに加え、疎開させたはずの孫も失った悲しみ、憤りを比

これまでの活動を振り返って



昨年6月に発足した、つしま丸児童合唱団は、合唱と英語あそびを両輪とした活動を行ってきました。

活動開始から約一年になることから、子どもたちに合唱団の思い出を書いてもらいました。

1年 いしかわ ゆの

しんぼうホールで、はなはさくをうたったりしました。えいごでは、ハロウィンパーティーやクリスマスかきをやったのしいおもいでができました。がつしようでは、お手だまど、まりつきをつかったり、しました。わたしは、うたが、好きなので、とつてもたのしいです。

はじめて、いれいさいをしたとき、あめがふってたけど、みんながんばってうたいました。ちようちよもとばしました。これからはがつしようやえいごをがんばりたいです。

1年 上原 一路

先生は、ときどきおかしをくれたり、えいごでは、ハロウィンパーティーやクリスマスおた

のでよかったなあと思いました。

3年 くずさこ つぐみ

わたしは、つしま丸に行くのがとても楽しみでした。

ハロウィンパーティーやクリスマスお楽しみ会やうたをうたつても楽しかったです。わたしは心にのこっていることは新報ホールでうたつたことです。

はじめて新報ホールでうたうことになってとてもうれしかったです。練習を何回もして、ついに新報ホールでうたうことになりました。

わたしはドキドキしたけどがんばつてうたつて先生にほめられました。それがいま心にのこっていることです。

わたしは合唱団で一番心に残っていることは、海鳴りの彼方く対馬丸の子らゝの公演です。練習期間はとても長く大変だったけど、お年寄りの方々の心の苦しみを少しでも力になれたらいいなと思います、アナウンス係も歌も踊りも全力でがんばりました。クリスマス公演では、那覇少年少女合唱団の皆さんと一しよにうたえていい体験になりました。

5年 葛迫 あずみ

わたしは合唱団で一番心に残っていることは、海鳴りの彼方く対馬丸の子らゝの公演です。練習期間はとても長く大変だったけど、お年寄りの方々の心の苦しみを少しでも力になれたらいいなと思います、アナウンス係も歌も踊りも全力でがんばりました。クリスマス公演では、那覇少年少女合唱団の皆さんと一しよにうたえていい体験になりました。

1年 上原 一路
先生は、ときどきおかしをくれたり、えいごでは、ハロウィンパーティーやクリスマスおたのしみ会やうたをうたつても楽しかったです。わたしは心にのこっていることは新報ホールでうたつたことです。

1年 いしかわ ゆの
しんぼうホールで、はなはさくをうたったりしました。えいごでは、ハロウィンパーティーやクリスマスかきをやったのしいおもいでができました。がつしようでは、お手だまど、まりつきをつかったり、しました。わたしは、うたが、好きなので、とつてもたのしいです。

2年 花岡 光
僕は、対馬丸合唱団にはいろいろな歌やショーをしました。ほかに、クリスマスパーティーやハロウィンパーティー、おたのしみ会があつたのしかったです。僕が一ばんたのしいと思つたのが先生たちと合唱のみんなという時です。

3年 くずさこ つぐみ
わたしは、つしま丸に行くのがとても楽しみでした。ハロウィンパーティーやクリスマスお楽しみ会やうたをうたつても楽しかったです。わたしは心にのこっていることは新報ホールでうたつたことです。

5年 葛迫 あずみ
わたしは合唱団で一番心に残っていることは、海鳴りの彼方く対馬丸の子らゝの公演です。練習期間はとても長く大変だったけど、お年寄りの方々の心の苦しみを少しでも力になれたらいいなと思います、アナウンス係も歌も踊りも全力でがんばりました。クリスマス公演では、那覇少年少女合唱団の皆さんと一しよにうたえていい体験になりました。



「ハロウィンパーティー」・「クリスマスおたのしみ会」など、楽しい行事もいろいろありました。3月2日の「ひな祭り親子お楽しみ会」では、父母の前でミニコンサートもやりました。

財団法人対馬丸記念会は、新年度より公益財団法人へ移行いたします。

財団法人対馬丸記念会は、新公益法人制度に対応して、公益財団法人の移行準備を進めてきました。このたび平成25年3月22日付けで、認定を受けましたので、遺族・協力会会員の皆様にご報告いたします。あわせて、これまでの公益財団法人移行への取り組みについて説明します。

1. 公益財団法人への移行の経過

(1)平成24年3月17日(土)第2回理事会・平成24年3月24日(土)第2回評議員会

両会において

- ①公益財団法人への移行
- ②最初の評議員の選任方法
- ③最初の評議員選定委員会委員の選任

右記3議案が承認され、次の5名の委員が選任されました。

外部委員

- 尚 弘子 (公益財団法人沖縄県文化振興会理事長/文化振興分野)
- 比嘉 正詔 (公益財団法人沖縄協会理事/平和発信分野)
- 嶺井 政治 (財団法人対馬丸記念会評議員/産業経済分野)

内部委員

- 又吉 治子 (財団法人対馬丸記念会監事/公益法人分野)
- 宮城 清志 (財団法人対馬丸記念会事務局職員/平和発信分野)
- (2)平成24年6月26日(火) 沖縄県に、「最初の評議員の選任に関する理事の定め」の認可を申請しました。
- (3)平成24年7月6日(金) 沖縄県から、「最初の評議員選定委員会の設置・運営規程」の認可書を受理しました。
- (4)平成24年6月13日(水) 平成24年度第1回理事会開催 公益財団法人移行に係る議案を提案し、原案通り承認されました。
- (5)平成24年6月16日(土) 平成24年度第1回評議員会開催 公益財団法人移行に係る事項を報告しました。
- (6)平成24年7月25日(水) 最初の評議員選定委員会開催 次の7名の方が最初の評議員に選任されました。

- 嘉数 昇明 元沖縄県副知事
- 野里 洋 元(株)琉球新報社専務取締役
- 座喜味和則 沖縄県護国神社代表役員
- (7)公益財団法人に関する事前調整の実施状況
- 5月29日(火)から14回にわたり県と各種規定の調整を行いました。
- (8)平成24年12月5日(水) 平成24年度第2回評議員会(臨時会)開催 公益財団法人移行に係る議案を提案し、一部修正を加えること及び、県との調整で発生する軽微な修正については、対馬丸記念会会長に一任することも含めて承認されました。
- 同時に公益財団法人移行後の理事及び監事の選任を行い、次に掲げる方が最初の理事(7名)及び監事(2名)に選任されました。

【理事】

- 高良 政勝 たから歯科院長
- 渡口 眞常 グラフィックデザイン
- 外間 邦子 元沖縄県栄養士会会長
- 渡久地政吉 元那覇市教育委員会教育長
- 瑞慶山良和 那覇市民生委員
- 上原 廣保 那覇市若狭2丁目自治会長

- 比嘉 正詔 公益財団法人沖縄協会理事
- 又吉治子 公益財団法人沖縄女師
- 一高女ひめゆり平和祈念財団理事
- 渡名喜三元嗣 元沖縄県監査委員
- 事務局監査課副参事
- (9)平成24年12月8日(土) 平成24年度第2回理事会(臨時会)開催

を再提出しました。

3. 移行認定

- (1)公益認定等審議会における審査(平成25年3月18日(月))
- 第三者機関である公益認定等審議会に県から諮問し、その答申を受けて公益財団法人への移行認定が行われました。

評議員会での議決内容を含め、原案どおり承認されました。

(2)公益財団法人の設立登記(平成25年4月予定)

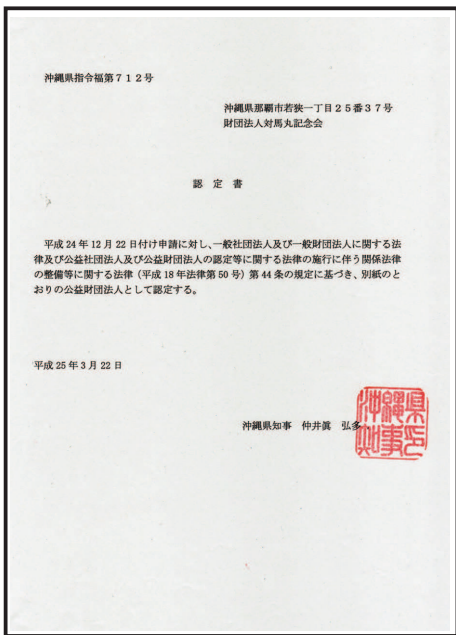
(10)平成24年12月22日(土) 沖縄県に対して公益財団法人移行認定申請書を提出しました。

公益財団法人の移行に必要な設立登記を認定された日から起算して2週間以内に行います。

2. 申請書提出後の調整状況

沖縄県と2月上旬〜3月中旬まで申請書の補正・修正の調整を行った上で、修正後の申請書

新公益財団法人の設立登記完了をもって、公益財団法人対馬丸記念会の誕生となります。



平和学習推進連携事業について

専門員 上原 徹

対馬丸記念館では、戦争の悲惨さと平和の尊さを広く国内外の児童・青少年に学習させることにより、明日の社会を担う子ども達が未来に向けて自主的に平和活動を実施することができるよう、平成24年度から内閣府の国庫補助事業を活用して平和学習推進連携事業に取り組んでいます。

平和学習推進連携事業計画で取り上げられた事業は、次のとおりです。

1. 平和学習推進連携委員会の開催
この委員会において、取りまとめられた平和学習推進連携事業計画に基づき、事業計画を作成し、また、今後の事業の進め方について指導・助言してもらうために、委員会を継続して開催します。

2. 対馬丸記念館に関するワークブックの作成
対馬丸戦没者の悲惨な歴史とその教訓並びに沖繩戦に関する基礎知識を学習させるためのワークブックを作成し、活用していきます。

3. 平和学習担当教師の研修計画の実施
平和学習担当教師を対象に、沖繩県平和祈念資料館と連携して、

開催し、平和教育の推進を図ります。

また、那覇市立教育研究所をはじめ、市町村教育委員会と連携して、平和学習を担当する新任教師を対象に沖繩戦や対馬丸事件に関する悲惨な歴史について学び、習得させていきます。

4. 平和学習モデル校の選定による平和学習推進連携講座等の実施
平和学習推進連携委員会の調査検討を踏まえ、平和学習を推進するモデル校を選定し、学校と

連携しワークブック等を活用した平和学習を実施することにより平和学習の底上げを図ります。

5. 対馬丸記念館のオーナーシップ事業の実施
子供達が、対馬丸記念館を通じて、日常的に平和発信活動に取り組むため、対馬丸大使証を作成し、配布する等、子供達が対馬丸記念館を自分の館であるとの思い（オーナーシップ）を持ち、館の活用について自主的に提案し、発言できるような条件整備を図ります。

6. つしま丸児童合唱団活動を通しての平和学習活動
つしま丸児童合唱団は、8月22日に挙行了した対馬丸慰霊祭の際に、合唱を披露し、また、11月11日に公演した新作組踊「対馬丸」の際の第一部の演目として公演しており多くの観衆を集め、歌声を存分に披露しています。

7. 新作組踊「海鳴りの彼方」〜対馬丸の子ら〜と平和学習活動
沖繩の伝統芸能「組踊」を活かして誕生した、芥川賞作家大城立裕氏の新作組踊を11月11日に琉球新報ホールで上演し、多くの入場者が観劇しています。

組踊公演を通して、対馬丸事件の悲劇の歴史とその教訓を風化させずに、子どもたちがより

良く生きていける社会の実現を目指し、平和と命の大切さを永遠に伝え続けます。

8. 対馬丸事件及び沖繩戦に関するアンケート調査の実施
沖繩戦が終結して約70年が経過しており、戦争体験者の方が高齢化し、当時の悲劇を語る方が少なくなっている今日、戦争犠牲者の実相や体験者の悲惨な体験を後世に正しく継承していくことが重要な課題となっており、

対馬丸事件及び沖繩戦に関するアンケート調査を実施し、その結果を集計・分析して平和学習等に活用していきます。

(5)

昨年8月8日と11月28日の2回にわたり委員会を開催し、その結果、平和学習推進連携事業計画と対馬丸記念館ワークショップの仕様書が原案どおり承認されました。

平和学習推進連携委員会の開催



第1回委員会

対馬丸事件及び沖繩戦に関するアンケート調査を実施し、その結果を集計・分析して平和学習等に活用していきます。



第2回委員会

視察

○10月24日

沖縄県市議会議長会35名来館

○11月4日

「ハワイ御冠船舞団」の一回が来館しました。高良会長が通訳を交えての講話の後、小桜の塔で古典音楽が奉納されました。



「ハワイ御冠船舞団」の一回が来館しました。高良会長が通訳を交えての講話の後、小桜の塔で古典音楽が奉納されました。

図画と書道のみ)を選抜展示しました。

○11月19日

全国的に知名度を上げる熊本



熊本のゆるキャラ「くまもん」と熊本県の沖縄県人会会長が来館しました。

○11月28日

平成24年度平和学習推進連携事業 第2回委員会議

○12月15日

つしま丸児童合唱団「クリスマスお楽しみ会」開催

○12月21日～2月15日

小桜の塔への通路舗装工事及び水道整備工事

○12月25日

読谷村立教育委員会より、8月2日来館時に館前で児童が拾得した2万円を当館へ寄付

○12月29日

平成24年度分 修正遺影の入れ替え作業(55枚)

平成25年

○1月16日

西原せつ子さんの歌う『バスガイドが歌う沖繩のうた』CD・テープが寄託され、売上金は当

財団に寄付されることになりました。

○1月19日

第21回ちやーがんじゅう講座

又吉亮二(又吉内科クリニック院長)先生を講師に迎え「健康になる食生活」と題した講座を行いました。



○2月21日

表紙で報告しました、小桜の塔前に植樹する、クメノサクラ4本がフェリーにて那覇港到着しました。造園業者にて保管され、4月6日午前11時より、つしま丸児童合唱団によって植樹式が行われます。

○3月2日

つしま丸児童合唱団「ひな祭り親子お楽しみ会」開催

○3月5日～3月7日

平和関連施設の運営状況及び

学童疎開に関する県外調査(外間邦子、宮城清志)ピース大阪(大阪市)、立命館大学国際平和

ミュージアム(京都市)、広島平和記念資料館(広島市)の3館を訪問しました。

○3月9日

第22回ちやーがんじゅう講座

「嬉しや、愛しや、苦しやー歌やらび、語やらび、島人の用心」民謡篤組(主宰 仲本晶盛)による命そして平和の唄と語りのミニコンサートが開催されました。



母様の香典返しを再び頂戴いたしました。重ねてのご不幸の中、記念会活動へのご理解、ご協力に感謝いたしますとともに、故人のご冥福をお祈りいたします。

○3月4日

協力会会員の

御主人様の香典返しを頂戴いたしました。感謝いたしますとともに故人のご冥福をお祈りいたします。

○10月1日～3月15日(日付順)

渡久地澄子、與世山亮、平良啓子、外間邦子、山本彩香、復帰40周年ジョイントコンサート、高原則子、吉田侑子、ハワイ御冠船歌舞団、琉山病院国吉昇、久里学園高等学校、中津川市立阿木高等学校、おの歯科小野恭央、大湾朝明、渡口眞常、嘉数昇明、中山きく、高良美寿代、高地秀子、読谷村教育委員会、仲田行克、又吉キク、田上恵文、湧川秀子、柴田一郎、神山正裕、ちやーがんじゅう講座会場募金、嘉数宏子、泊先寛顕彰会、比嘉明子、中村哲治、鳥塚義和、斉藤幸江、Y・S(匿名)様

以上の方々からご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます。

ご寄附
○香典返し
○12月4日
平成22年に元宝塚スターの故大浦みずき(本名・坂田なつめ)さんの香典返しを頂戴いたしました、姉の内藤啓子様より、お



今回で60回を迎えたおなじみの図画・作文・書道コンクールの那覇地域(今回は対馬丸児童に縁の学校のみ)の児童の秀作(優良賞以上の

賞以上の

賞以上の

賞以上の

賞以上の